

パモジャ PAMOJA



第39号
青年海外協力隊 巢守 世那
2026年 8月3日発行

電気や水のありがたさ

日本では、スイッチを押せば電気がつき、蛇口をひねれば水が出るのがあたりまえですが、その「あたりまえ」がどれだけすごいことをタンザニアに来てから実感してきました。今回は、タンザニアの電気や水事情を紹介します。

タンザニアは電気も水道も通っているところもありますが、ないところもまだまだあります。水道を使うと高いので、井戸の水をバケツにくんで使ったり、タンクに貯めた水を使ったりしています。飲み水はスーパーに売っている13ℓも大きさのものを家にたくさん常備しています。ただ、道端で売っているご飯やおやつを作る水はどこから来たものかわからないので、衛生的に大丈夫かなと不安になることもあります。必ず煮沸してから使っていることもあってお腹を壊したことはありません。

電気は、携帯でお金を払うと電気会社からメッセージがくるので、そのメッセージに書かれた番号をこの機械に打ち込むとお金を払った分の電気が使えるようになるという仕組みです。停電は結構な頻度ですが、その時はソーラーランタンをつけて過ごすか、もう寝ちゃおうと諦めて寝ています。

日本のインフラがどれだけ整っているかそのすばらしさを改めて実感しています。そして、タンザニアの人々の突然の停電や断水にも動じない逞しさも見習いたいと思います。



↑電気をチャージする機械



↑電柱は木でできていることも！



↑黒いのが水をためるタンク



↑井戸

タンザニアのあたりまえだけど、「えっ！」な風景



生きた鶏をバイクで運ぶ



片手で大量のオレンジの袋を持ち、バスの窓からオレンジを売るオレンジ売りの男性



大量のパンを運ぶバイク



学校に突然魚を売りに来る



「この細い木が足場さ！」
建物を建てる時は、木を足場に。命綱はつけていません…

まだまだありますが、それはまた別の機会に